

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版、名古屋建築 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2014(v.1.22)  
 物理環境配慮制度運用マニュアル2014

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	レゴランドジャパン新築工事 K-1 T	階数	地上2F	外観/パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
建設地	名古屋市港区金城ふ頭二丁目1番	構造	S造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	890 人		
気候区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年		
建物用途	物販店、飲食店、集会所	評価の段階	基本設計段階評価		
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2015年4月10日		
敷地面積	89,135 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	2,671 m <sup>2</sup>	確認日	2015年4月10日		
延床面積	2,671 m <sup>2</sup>	確認者			

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.0 ☆:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B:★★★ C:★ 	 ☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30% 標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+  このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<b>Q 環境品質</b> <span style="float:right">Qのスコア= 2.9</span>		
<b>Q1 室内環境</b> <span style="float:right">Q1のスコア= 2.8</span> 	<b>Q2 サービス性能</b> <span style="float:right">Q2のスコア= 3.0</span> 	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> <span style="float:right">Q3のスコア= 2.8</span> 
<b>LR 環境負荷低減性</b> <span style="float:right">LRのスコア= 3.1</span>		
<b>LR1 エネルギー</b> <span style="float:right">LR1のスコア= 3.4</span> 	<b>LR2 資源・マテリアル</b> <span style="float:right">LR2のスコア= 2.9</span> 	<b>LR3 敷地外環境</b> <span style="float:right">LR3のスコア=3.0</span> 

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 敷地全体に低層の建物を配置し、外構は極力緑化することで自然環境の向上をめざした。また、敷地周囲に幅7mのサービス道路を計画することで建物をセットバックし、周囲に与える威圧感を緩和する計画とした。		<b>その他</b> 駐車場は隔地の集約駐車場に設けることで周辺道路の交通渋滞の緩和に配慮した。
<b>Q1 室内環境</b> 外壁面の開口部を極力抑え、室内空調環境の安定化に努めた。	<b>Q2 サービス性能</b> 各エリアの各トイレに身障者対応WC及びおむつ替えスペースを設け、サービス空間を充実させた。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外構を極力緑化し、自然環境の向上を目指した。
<b>LR1 エネルギー</b> レストランの客席スペースの多くを屋外に設け、パラソルを設置することで日射遮蔽に配慮し、冷房負荷の低減を図った。 別棟の監視室に中央監視装置、パッケージエアコン・全熱交換機用集中監視装置を設置し、設備の運用状態が把握	<b>LR2 資源・マテリアル</b> テラス部分に再生木デッキを使用。また、節水型衛生設備・擬音装置を設け、水資源に配慮し、資源再利用に努めた。	<b>LR3 敷地外環境</b> 敷地外周部に緑地帯+サービス道路を廻すことで建物をセットバックし、周辺への環境の向上に努めた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される